

■第10回図書館総合展/第3回IRIが選ぶ「Library of the Year」パネル2

第3回 IRIが選ぶ「Library of the Year 2008」

ジュンク堂書店 池袋本店

推薦文



1. 図書館型書店を標榜しているように、一時の流行や売れ筋の書籍を中心にではなく、利用者の多様なニーズに応えることのできる「厚みのある蔵書構成」を実施している。同店の各分野の専門書や全集の品揃えに匹敵する都内の公共図書館は、都立中央図書館だけではないだろうか。これは営利で行なっている書店経営としてはかなりのリスクを負っていることになるが、本と人との出会いの場を提供することをモットーとしていることを実際に裏付けている。
2. それを支えるための書店員の専門性確保に重点を置いている。当初配属したフロアから原則異動させず、企画・仕入れ・配置等すべての権限と責任を持ってフロアの担当者が担う体制を整えている。利用者との対応や店員同士の会話を見ても、店員の専門知識や意欲はかなりのレベルにあり、この点でも、現在の公共図書館職員の一般的なレベルをはるかに超えていると思われる。
3. 名物のトークセッションも、有名人や話題の本を取り上げる販促戦術というよりも、あくまで本の内容に基づいて、話題としたい、あるいは注目すべきと考えるテーマを提示しており、テーマ選択のセンスの良さが光る。単なる人寄せイベントに終わらず、読者と著者の出会いを設定することで、情報・知識を発信していこうとする姿勢がうかがえる。

4. 利用者の方でも、同店の提案・姿勢を理解して使っているように思われる。専門書や参考図書を当てにして、調べ物に利用している人もかなり多いように見受けられる。座り読みの利用者を含めて、店内の雰囲気はかなり「図書館的」である。

5. 書店=商売・私的利益、公立図書館=公共利益という従来の図式にとらわれずに実際の運用・使われ方を見ると、以上のジュンク堂書店のあり方には、出版文化を支え、著者と読者の出会いの場をつくり、人々の情報ニーズと知識創造を支えようとしている点で、十分公共性が認められる。一方、専門職員ゼロ、特定利用者のリクエストや話題の本を中心に貸出だけに専念しているような図書館を「公共」図書館と呼べるのだろうか。ジュンク堂書店の存在は、これからの「公共性」と「図書館」を考える上で、大きな示唆を与えてくれる。



書店情報

書店名 ジュンク堂書店 池袋本店
所在地 東京都豊島区南池袋2-15-5
TEL 03-5956-6111

URL <http://www.junkudo.co.jp>
開店時間 10:00~21:00
閉店日 年始のみ

書店の特長及び概要

- ①各主題で分けられた10階のフロアで構成、レジは1階に集中。売り場面積は国内最大級の約2000坪。常時在庫150万冊。各階に椅子を設置し、店内書籍の「座り読み」を可能にする。
- ②週1回以上のペースで、話題の著者等を招いた連続トークセッションを開催する。また、著名人がプロデュースする店内「作家書店」コーナーを設置。
- ③今年から「想」検索の対象に書店として初めて参加。図書館、古書店、インターネット情報などとの横断検索を可能にする。
- ④本と人との出会いの場として「図書館より、もっと図書館」を当初から標榜、流行や提案よりも、あらゆる主題・事態に対応する書籍群の充実をめざす。書籍の品揃え（質・量共）を最重点に考える。
- ⑤各フロア担当者は、各フロアの主題分野の専門家として育てるため、原則として異動なし。パート、アルバイトも、勤務年数・勤務態度・学習意欲などに応じてランクが上がり、正社員への道が開かれている。